

平成23年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	アジア蔬菜研究開発センター(AVRDC)拠出金 (任意拠出金)		担当部局庁	国際協力局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	昭和46年度開始		担当課室	地球規模課題総括課		課長 松浦 博司		
会計区分	一般会計		施策名	Ⅶー3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、通知等	アジア蔬菜研究・開発センター憲章第9条				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	開発途上国の貧困削減のため、蔬菜(野菜)類の生産技術の維持・改良及び、効率的な市場流通機構等の調査・研究、並びに有用遺伝資源の配布事業を行う。このような、環境を考慮しつつ、開発途上国の農村や都市近郊に生活する低所得者層の栄養改善と収入増加を図ることを目的として設立されたAVRDCの活動の支援を通じて、途上国の貧困削減、持続可能な開発に貢献することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	AVRDCが行う(1)研究活動(品種の育種・改良、土壌分析及び肥料施肥法の改良、栽培法の研究、収穫物の加工法及び流通面の研究)、(2)現場出張サービスプログラムの実施、(3)遺伝資源の保存、(4)種子の配布、(5)開発途上国の国別研究強化のための支援、国際シンポジウム、セミナー及びワークショップの開催、(6)訓練コースによる研修生教育、(7)情報提供サービス等の活動を行うための通常予算に拠出を行い、このような活動及びこれを支えるAVRDCの運営経費を支援する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☒ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	7	7	4	3	3	
		執行額	7	7	4			
	執行率(%)	100%	100%	100%				
	成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度
収集した遺伝資源(種子)の特性を評価し、これらを掛け合わせて新品種(高生産性・耐干ばつ・耐害虫性等)を開発している。新しい知見は論文として公表しており、論文の公表数を成果指標とする。		成果実績	本数	46	59	40	60	
		達成度	%	77	98	67		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	野生種を含めた遺伝資源(種子)を継続的に収集・保管しており、遺伝資源保有数を活動指標とする。		活動実績 (当初見込み)	品種数	56,516	57,175	57,925 () ()	60,000
単位当たりコスト	371千ドル／1論文		算出根拠	14,854千ドル(平成22年度AVRDC全体予算額)／40(論文公表数) ＝371千ドル				
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	アジア蔬菜研究開発センター(AVRDC)拠出金	3,333	2,520	拠出額減額				
計	3,333	2,520						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	開発途上国の貧困削減対策の重要性が増す中、AVRDCは蔬菜を通じた栄養改善と収入増加にむけて積極的な取組を進めている。AVRDCの活動報告、会計報告等の資料は、年1回開催されるAVRDC理事会（日本も理事を派遣）に提出され、加盟国等により審議されているが、AVRDCにおいても、効果的な活動に資するよう、3カ年の行動計画を立てて効果的な事業運営に努めているところである。一方、AVRDCへの拠出金は、不断の見直しにより平成13年度8025万円から平成23年度333万円まで大幅に削減しており、これ以上の削減は困難である。事業内容については引き続き適切に把握し、事業が効果的に実施されるよう注視していく必要がある。		
予算監視・効率化チームの所見			
抜本的改善		拠出額減額	
	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）		
(縮減)拠出額減額			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			